

ニュース

第14回国際社会性昆虫学会議

ミツバチ、スズメバチ、アシナガバチ、アリ、シロアリなど、社会性昆虫の研究者で組織されている国際社会性昆虫学会 (IUSSI) が、4年ごとに開催する第14回国際会議が2002年7月28日～8月3日の間、北海道大学 (札幌市) で開催される。会議への参加は、国外650人、国内150人の800人が見込まれている。会議の詳細および参加登録に関しては、下記ホームページアドレスをご覧ください。ミツバチ科学研究施設までお問い合わせいただきたい。

また、できるだけ多くの国々の研究者の交流を実現するため、国際社会性昆虫学会に組織されていない東南アジア、中国、韓国からの演題発表者に対する経費の一部援助を目的とした募金活動が、日本学術振興会を窓口として進められている。一部の会員の方々には、第14回国際社会性昆虫学会議組織委員会を通じて、この募金の案内が届く予定で、その節には是非ご協力のほどをお願いしたい。ミツバチ科学研究施設からもこの募金に関する案内をお送りすることができるので、ご一報いただきたい。

第14回国際社会性昆虫学会議ホームページ
<http://iussi.coop.hokudai.ac.jp>

ハチミツブームの到来?

(社)日本養蜂はちみつ協会が刊行する日蜂通信8月25日号 (通号470号) によれば、今年はハチミツがブームになっているという。当施設へのテレビ・ラジオ等の取材も春から夏にかけて相次いだ。実際の消費は業務用・加工用を中心に伸びているというが、各地のデパートの食品展などへの出展状況を見ると、国内外を問わず蜜源植物の種類が増え、いわゆるテーブルハニーの需要も拡大している印象を受ける。次号では最新のハチミツCODEX規格などを含めハチミツ関係記事の特集を予定している。

ミツバチの糞に関する報道

日本テレビニュースプラス1で5月21日・28日両日にわたって、西東京市で問題となったミツバチの落下糞に関する報道があった。番組では(社)日本養蜂はちみつ協会前常務理事がインタビューに応えた。問題の落下物がミツバチの糞であることはご覧になった方も一目でおわかりだったと思う。

報道とは別に、普段から糞に関する一般からの問い合わせは多く、各地で問題化している様相である。趣味養蜂が広く浸透して、ミツバチへの高い理解があるヨーロッパでも糞による汚染に対して訴訟が発生するケースが多いという。特に都市近郊での養蜂の場合、周辺住民との関係を損なわない配慮が求められている。

第6回アジア養蜂研究協会大会 参加ツアーのご案内

本文記事にもあるように来春2月にインドカルナタカ州バンガロールで開催される第6回アジア養蜂研究協会大会参加ツアーが企画されている。参加申し込みは同封のパンフレットをご覧ください。アジア養蜂研究協会事務局まで。
 〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
 玉川大学ミツバチ科学研究施設内
 tel/fax 042-739-8685

編集後記

今回は来春のアジア養蜂研究協会大会開催地インドに関する記事を掲載した。地域情勢が不安定な時期でもあるが、できる限り多くの方々の参加を得て回を成功に導きたい。

今号では、森林総合研究所の牧野氏にミツバチからすれば憎きスズメバチを利用する、スズメバチネズレバネの興味深い生態を紹介いただき、東大の竹内氏ほかにミツバチの脳の分子機構についてわかりやすく解説していただいた。松浦氏、大谷氏の論文は別途掲載されたものを転載した。前報に続く大阪の菅原氏のニホンミツバチを誘引するランはずいぶん研究が広がってきて注目に値する結果が出ている。(純)